

# 山行報告書

報告書作成

2006年5月9日

山名 [山域]	火打山 [頸城]	目的と方法	山スキー
登山期間	4月21日(金) ~ 22日(土)	山行形態	日帰り
参加人数	3名		

## 行動記録

21(金)晴

市民センターP(2000)==飯田IC(2145)==信濃町IC(2405)==笹ガ峰登山口手前2.5km(100)

22(土)晴

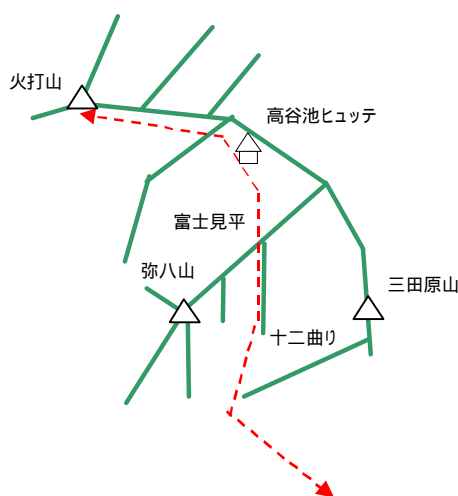
笹ガ峰登山口手前2.5km(555)--黒沢徒渉点(750)--富士見平(1025,1040)--高谷池ヒュッテ(1125,1140)

--火打山山頂(1300,1305)--高谷池ヒュッテ(1345,1355)--富士見平(1430,1440)--黒沢徒渉点(1520)

--笹ガ峰登山口手前2.5km(1705,1715)==苗名の湯(1745,1815)==ランドマーク(1820,1850)==妙高IC(1855)

--飯田IC(2130)==市民センターP(2330)

## 概念図



## 日誌

火打山はぜひ山スキーで登ってみたい山のひとつで楽しみにしていた。

集合場所に自分を含め4人が集まったが、さんの体調が思わしくなく、3人での出発となる。

日曜日の天気があまり良くないので、当初予定の飯縄山(飯綱山)は中止とし、火打山のみとする。

信濃町ICで下り、笹ヶ峰Pへ近づくにつれ段々と車道の両側の雪の壁が高くなってきた。登山口手前2.5km地点で除雪が終了しており、ここで車をとめ、テントを張る。

翌朝、目覚めると、昨夜2台だった車はかなり増えている。朝食を簡単に済ませ、いざ出発。

先行する若い男女2人組のパーティに追いつき、この山域について色々聞こうとしたが、初めての山ということであった。しかし、当然のことであるが読図もしっかりとしていて、山スキーはかなりやっているように思えた。黒沢の徒渉地点をどの辺りにするか、富士見平へ至る十二曲がりの尾根はどこを探りながら進む。弥八山の尾根と十二曲がりの尾根を間違えそうになる。後ろからきた男2人組のパーティに確認し、今の進路で問題ない事を再確認する。十二曲がりの急登はシールでは限界があり、途中で、つぼ足に切り替える。先行する男2人のペースはとても速く、追いつけない。しかし、急斜面につけられたステップがこんなに楽チンとは。感謝しながらのぼる。富士見平から高谷池ヒュッテへの道のりは大半がトラバースで、結構応えた。高谷池ヒュッテは今日から営業ということで、小屋の周りは掘り下げられていて、入口が見えた。

人はまだいないようだ。ここから火打山までの間も結構急な斜面のトラバースがあり、慎重に近づいていった。

山頂は遮るものが何も無く、360度の展望。東から知っているだけでも左回りに焼山、後立、高妻山、富士山、

浅間山と妙高山、そしてその間に富士山に良く似たあの山は何だろう？ 出発してから既に7時間が経過。山頂からはシールを外し、一気に大滑降といきたいところが、足がへろへろで何度か休憩しながら下山。十二曲がりの急斜面はシャーベット上の雪質を斜滑降で、高度を下げていく。最後はこけまかった。